

# 福中通信 2022 12月号



令和4年 12月1日  
発行責任者 市瀬 佐代

## ○2022年はどんな年でしたか？

校庭のイチョウは葉を落とし冬支度をしています。今年もあと少し。職員室へ入ってくる皆さん一人一人の挨拶「失礼します。」「おはようございます。」「失礼しました。」の音が、春に比べ大きくなったなあと感じます。

11月も音楽祭、県駅伝大会、人権教育参観授業、人権教育講演会、リサイクル品回収と多くの学校行事がありました。全員が活躍する場があるのが福井中学校の良さです。目の前のことに一生懸命取り組みながら、学年の終わりには、こんな自分になっていたという目標を達成するために、今年をふり返ってみましょう。時には頑張った自分を認め、褒めてください。

「人数が少ないから、わからないことがききやすいです。」「福中の良いところは？」に返ってきた言葉です。授業中や休み時間に、自分から「わからない。困った。」を「わかった。できた。」に変え、目標達成のために一日一日を積み重ねていきましょう。

## ○人権劇

10月31日、1,2年生が人権劇39作目の「青空の下で～私の人権～」を上演しました。

劇の練習前には、「前回の練習の反省点と今日の目標」についてのミーティングに意欲的に臨む姿が見られました。本番でも、台詞の一語一語を大切に、思いを込めて大きな声で演じることができました。最後に、どんな思いで演じたかを、一人ずつ、舞台上で述べました。全員が、自分の思いを堂々と述べることで、劇とともに、素晴らしかったです。今年も、保護者の皆さんとともに、小学校5,6年生、学校運営協議会の皆さんにもご覧いただきました。小学生からは、後日感想もいただき、うれしく読ませていただきました。ありがとうございました。



## ○PTA授業参観・人権講演会・リサイクル品回収

11月26日のPTA授業参観では、各学年で人権学習を行いました。人権講演会では、牧逸馬さん（徳島県人権教育指導員）に、「私の自己実現～あなたが大事、私も大事～」についてお話していただきました。

リサイクル品回収では、保護者の皆様、地域の皆様大変お世話になりました。収益金は、生徒の活動費として大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



## ○音楽祭

11月1日は音楽祭でした。椿町中学校と合同合唱で出演しました。コロナ禍のため、2年間音楽祭には出場できていなかったため、3年生にとっては初めての音楽祭でした。9月から練習を積み重ね、一人一人が自信をもって歌えるようになりました。合唱曲は、「水平線 back number」です。客席で聴いていて、福中生、椿町中生の歌声に感動しました。また、市内各中学校の演奏を聴けるいい機会となり、お琴やジャズバンド、吹奏楽と、様々な音色に感動の一日でした。



後期学級委員任命 よろしくお祈りします。

第1学年級長 Mさん 副級長 Yさん

第2学年級長 Sさん 副級長 Mさん

第3学年級長 Kさん 副級長 Kさん



(3年生最後の朝練)

## ○県駅伝大会

11月5日県駅伝大会が行われました。男女とも粘り強く走る事ができました。3年生にとっては、これが最後の駅伝大会。3年間、暑い日、寒い日、ずっと朝練に参加して頑張ったことに自信を持って、次の目標へと走り続けてください。1,2年生は、心機一転、朝練での自分の目標を定め、それに向かって取り組んでください。



## ○数学研究授業

11月22日、阿南市の数学の研究授業がありました。1年生の、意欲的に授業に取り組む姿が見られました。タブレットを活用し、様々なアイデアを発表することができました。

\*裏面もご覧下さい。



## 1 2月の行事予定

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1日(木)全校集会<br>スクールカウンセラー          | 14日(水)世界スタンダード英語4技能育成事業<br>(2年)「いのちの授業」⑤             |
| 2日(金)図書館サポーター                    | 15日(木)ノー部活デー   |
| 3日(土)県中学校軟式野球春季リーグ<br>中央大会       | 16日(金)実力テスト(3年)<br>生徒会役員改選立会演説会⑥<br>ひまわり号来校・図書館サポーター |
| 4日(日)家庭人権学習の日                    | 19日(月)三者面談 短縮5時間(21日迄)                               |
| 5日(月)3年後期中間テスト                   | 20日(火)学校安全の日 三者面談                                    |
| 6日(火)後期中間テスト                     | 21日(水)三者面談 阿南光高校出前授業                                 |
| 7日(水)後期中間テスト<br>デートDV防止セミナー講演会   | 22日(木)専門委員会 ノー部活デー<br>スクールカウンセラー                     |
| 8日(木)スクールカウンセラー ALT<br>ノー部活デー    | 23日(金)全校集会④・大掃除⑤<br>図書館サポーター                         |
| 9日(金)図書館サポーター全校読み聞<br>かせ         | 24日(土)冬季休業日～1月6日まで                                   |
| 10日(土)県中学校軟式野球春季リーグ<br>中央大会      | 1月10日(火)全校集会   |
| 13日(火)3年社会科出前授業(公正取<br>引委員会) ALT | 11日(水)3年第3回基礎学力テスト<br>1・2年確認テスト                      |

## ○「ユネスコ世界文化遺産 男鹿のナマハゲ」 演舞実演

11月26日、「ナマハゲ」の皆さんが学校に来て下さいました。「ナマハゲ」の語源調べてみましたか？まだ調べていない人、是非調べてみてください。

迫力ある太鼓のバチさばき、体育館中に響く圧倒的な音量、恐ろしい鬼の姿に驚きました。生で見るのは初めてで、大変いい経験になりました。最後に写真もたくさん撮っていただき、とてもいい記念になりました。ありがとうございました。



## ○第40回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品(令和3年度)

「名前」  
福島県 須賀川市立第二中学校 3年  
須田 琴菜(すだ ことな)

文部科学大臣賞

結婚したらなんていう名前になりたい？  
中学生女子のおしゃべりはいつも夢に満ちた恋や結婚への憧れが散りばめられている。

「神宮寺、なんてかっこいいよね。」  
「私は好きな人の名前なら何でも！」  
あまり近寄りたくない話題なのに、  
「琴菜は？将来どんな名前になりたい？」  
聞かれてしまった。うーん。言い淀む私に一人が気を使ったように、琴菜はお家を継ぐんだよね。お婿さんをもらうから名前はそのままなんだよね、と言う。あ、そうなんだ。

いいね、大人になっても SNS で探しやすいね、と誰かが言い、みんなが笑った。私もほっとしながら一緒に笑う。

私の家は四百年以上続く神社の神主の家系で、その職を継ぐのは私の小さいころからの夢だ。家族も地域の人たちもそれを喜んでくれているようで、それは私にとっても嬉しいことだ。しかし、時々ひっかかる言葉に出会うことがある。例えばさっきの「お婿さんをもらう」もそう。確かに私の家はずっと「神職の須田家」で私には姉妹しかいないけれど、私が神社を守っていくのに「お婿さん」は必要なのだろうか？

新聞やニュースで、「選択的夫婦別姓」という言葉を聞くことが多くなった。夫婦は同姓と定めている今の法律下では、姓を変える側だけが多大な不利益を被ってしまうので議論が進んでいるらしい。日本には慣習的に女性が自分の姓を男性側に変えることが圧倒的に多く、その割合は96パーセント。だからこれは女性の人権問題だとする声が多い。

だけど私には、残りの4パーセントの数字が心にのしかかる。私は将来の夢を目指す限り、一緒になってくれる人に、たった4パーセントの男性しか被らない不利益をお願いしなければならないのだろうか。考え出すと将来を思い描くことが少し嫌になってしまう。同じ悩みを抱えている人はいないのかと調べてみるといろんな意見、解決すべき様々な課題があった。旧姓の通称使用の限界。子の姓決定問題。婚姻に際し選ぶ姓は夫側でも妻側でも構わないのだからその点において公平だという主張もわかった。それでもなお私が将来の伴侶にどこか遠慮をしてしまうのには、もう一つ理由がある。

神社は母の実家で、父が姓を変えた。レアな4パーセントの方だ。父に、名前の変更は大変ではなかったか、と訊ねたことがある。

「ありとあらゆる名義変更。友人や知り合いへの通知。親の説得、自己喪失感。確かに大変だったけど、それよりキツイのはね。」

父は少し間をおいて、お婿さんっていうレッテルを貼られることだよ。と言った。お父さんとお母さんは、ごく当たり前、二人で独立した戸籍を作ったんだよ。その時に妻の姓を選んだ。ただそれだけなんだけど。

「でもお父さんはお婿さんなんですよ？」

という私に父は急に真面目な顔で言った。

「琴菜、覚えておきなさい。結婚するすべての男性は花婿で、すべての女性は花嫁だ。その意味以外の婿、嫁という制度は今の日本には存在しない。婿に来た、とか嫁にももらった、という言い方をきくかもしれないけど、それは誰かを知らず知らずに貶め、不快にさせているかもしれないから、琴菜はよく気を付けようね。」

はっとした。「お嫁さん」は私たちの日常でもよく聞く言葉だ。近所のおじさんは、ウチの嫁さんが、といつも言っている。父の言うことを考えると、それすらも先入観と色眼鏡を通した言葉になってしまう。

以来、ずっと婿や嫁という言葉について私は考え続けている。古い日本の家父長制度の慣習だった嫁入り、婿入りの概念が令和の今も残っている。私の住むような田舎の地方では今もなお、苗字を変えた男性は「お婿さんなんですね。」と揶揄され、女性は「嫁」としての役割を背負わされがちだ。「お婿さんだからかわいそう」「お嫁さんだから名前を変えて当然」悪気はなくても、勝手に貼ったレッテルで誰かの社会的立場を決めつけることでやはりその人の人権を蔑ろにしているのではないだろうかとは私は感じている。

間違っただけの思い込みを誰かにぶつけること、それが「差別」だと思う。そして差別意識は人権の無視に他ならない。選択的夫婦別姓についての議論もこれからますます必要になるだろう。それと同時に、夫婦がどちらの姓を選んでもそれが当たり前になるよう、社会の成熟を促すことも急務だ。

勿論私だって、中学生女子的「好きな人の苗字になりたい。」も素敵な気持ちだと思う。でも苗字がどちらでも、将来のパートナーと私はどんな時も対等でいたい。

だからまずは私から、偏見を含んだ言葉を人に向けないこと。間違っただけの思い込みをしていないか常に見直すこと。私の夢を応援してくれる周りの友達にも、私の考えていることを伝えていこう、と思っている。

人権教育講演会で頂いた資料の中に、「クレヨンしんちゃん主題歌「スーパーstar」  
(作詞・作曲 ケツメイシ)がありました。お帰りの際、牧先生にこの歌詞のことをお  
尋ねすると、「時間がなくて触れられなかったけれど、この歌の歌詞はとてもいいです。」  
とおっしゃいました。私は、今までこの歌の歌詞を意識したことはなかったので、改め  
て読んでみました。なるほど、と思いました。  
「僕できないから君がやる 助け合うことに意味がある 君できないから僕がやる そ  
の事だけならよく分かる……」

クレヨンしんちゃん主題歌「スーパーstar」 作詞・作曲 ケツメイシ

ほら溢れ出してるよ君のパワー  
でも気付いてないのさ君は  
感じたまま動き出せたら  
鳴り止まぬラブ&ピース

君は持ってるスーパーstar  
僕にとってもスーパーstar  
みんなそれぞれスーパーstar  
だからそれぞれみんなのスーパーstar

早く気付いてスーパーstar  
明日は光スーパーstar  
ドウラッタタタタ・・・  
誰もがみんなのスーパーstar

